

新体操男子 採点規則 2022 年版ヘルプデスク

<団体競技>

Q1 同じ転回技に対する加点で、6人で3回バク転伸身宙返りをし、5人が着地、1人だけが続けて切り返し前宙をした場合は加点の対象になりますか？

A 3回バク転伸身宙返りが成立していますので、同じ転回技の加点対象になります。この場合(1)-③に該当し0.3の加点になります。

Q2 同じ転回技を同時に行った場合の加点で、ばらつきがあった場合は加点の対象になりますか？

A ばらつきの度合いによって異なります。概ねリズムがそろっており、構成審判が同時の技として認めれば加点されますが、実施で減点されることとなります。どのくらいのばらつきまで許容されるかは審判の裁量となります。

Q3 同じ転回技の加点とは4回同じ転回という意味ですか？バク転-テンポ-バク転-宙返りは対象外ですか？

A 4回以上の同じ転回とは、同じ技を4回以上ではなく、4回以上の連続した転回を6人が同じく実施するという意味です。

Q4 着地に対する加点で、側方宙返りでバラ足着地した場合は加点対象になりますか？

A 着地に対する加点は、両足同時で静止することを条件としていますので対象とはなりません。両足がそろっていなくても、この条件を満たしていれば加点対象になります。(下図参照)



左右の足が同時着地であればOK

Q5

着地に対する加点で、着地後の静止は2秒ですか？

A 倒立や柔軟のように2秒静止をしなくても、しっかりと静止が見られた時点で加点対象になります。

Q6

着地に対する加点と同じ転回技に対する加点を同時に取ることはできますか？

A できます。例えば3回バク転伸身宙返りを6人で同時に行い、同時に着地した場合は、(1)-③の0.3と(2)-②の0.2を併せて0.5の加点になります。

Q7

第1タンブリングで6人同時の足着地、第2タンブリングで6人がバラバラのタイミングでの足着地をした場合、 $0.2+0.1$ で0.3の加点になりますか？

A なりません。団体の追加の難度は(1)～(4)それぞれで1番価値の高いものを採用します。同じ項目を重ねて数えることはしません。

Q8

徒手系難度に対する加点で、加点対象の柔軟を2回別々に行った場合はどちらも加点対象ですか？

A 加点対象は1回だけです。ルールブックにはその都度加点となっていますが、柔軟・倒立・バランスそれぞれ1回のみ加点対象です。2回行った場合は難度の高い方を優先して加点します。

<個人競技>

Q1 クラブやリングで投げた手具を受けると同時に、もう一つの投げていない側の手具を投げた場合は加点対象になりますか？

A なりません。この加点は投げたものを受けると同時に投げ受けすることに対する加点です。手具が入れ替わった場合は対象外です。

Q2 視野外で手以外の投げをした場合の加点は0.1ですか？0.2ですか？

A 0.1になります。2022年版から視野外手以外の加点がその都度0.1となりました。ただしこの加点は「1回の投げ」に対して加点は0.1、「1回の受け」に対しても同様に0.1になります。したがって、視野外で手以外を使って投げても、1回の投げに対しては0.1の加点になります。

ただし、この投げを視野外で受けた場合は、受けに対しての加点0.1が付きますので、この投げ受けは併せて0.2の加点になります。

Q3 ロープの投げ受けで、ロープの片端を視野外で受けた場合、視野外手以外の加点対象になりますか？

A なりません。

Q4 受けると同時に投げる技の「同時」とはどの程度まで許容されますか？

A 手具が落下してくるエネルギーを、そのまま振り子運動のように投げにつなげていることが求められます。したがって手具を静止させたり、運動の流れが途切れたり、急な方向変換があるものは受けると同時ではなく「別の投げ」として判断します。

ただし体や手具で弾ませたもの(床は対象外)が2m以上の高さになれば、受けと同時に投げたものとみなします。

Q5

受けると同時に投げる技や次々に投げる技は、それぞれ投げの回数にカウントできますか？

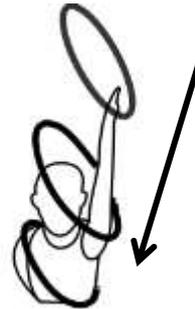
A 投げの回数は、それぞれカウントします。

Q6

リングを肩で受けた場合は、手以外の対象になりますか？

A ルール上の手とは腕から手の先までを指しますので、肩であれば対象です。

右図の場合は手以外のキャッチになりますが、明らかに腕に触れた場合は腕で受けたことになります。



<その他>

Q1

2015年版までのヘルプデスクで解説があった内容は、そのまま適用されますか？

A 基本的なルールの解釈は変わっていませんので、ヘルプデスクの内容は継続しています。